



四万十町

町内「ぶら〜り」散策

くちうついがわ 口打井川

打井川地区は、予土線打井川駅周辺から、打井川に沿って南へ直線距離で7km以上(道なりに行けば10km以上)に渡り、南限は黒潮町に接する。峠の向こうは伊与喜である。また、東限は上宮、さらに家地川及び黒潮町市野々川、西限は四手ノ川及び上岡に至る。人家は、国道381号沿いから打井川に沿って点在していて、地区が長く広いため、四万十川に注ぐ打井川最下流から、南(上流)へ向かって、口打井川、中打井川、奥打井川に分かれている。現在は打井川という表記であるが、戦国期の記録では宇津井川と記されている。今号は口打井川である。口打井川は、前述の通り、打井川最下流域に位置しているため、北ノ川とのつながりが深い。打井川小学校(現ホビー館)があった時代も、口打井川の子どもたちは北ノ川小学校に通った。上宮の沈下橋ができるまでは、渡し舟を使って通ったそうである。

口打井川にも、以前は四万十川にかかる沈下橋があった。昭和25年に、現在の抜水橋のすぐ西に造られた。(抜水橋ができたのは昭和53年である)この場所は浅瀬になっていて、昔はここを歩いて渡っていたという。江戸後期か明治初期のこと、村の「お兼」という女性が、幼子を背負って渡っていたところ、誤って流されてしまうという事故があり、これをとても不憫に思った村人たちが、親子の供養と安全祈願のために、川の両岸に一体ずつ地蔵を作った。岸の両側から見合うように、川を渡る人々を見守っているため「見合地蔵」という。

さて、地区の産土神は「河内神社」

である。各地区紹介の折に度々明治23年の水害について書くのだが、ここにある棟札にも、そのことに関するものがある。水害直後に、地区の人が後世のために書き残したもので「後年二至り知ル為記シ置」から始まる。

この河内神社の境内に、今年(2021年)「口打井川の馬之助神社」を移設した。元は、車越(くるまごえ)という高台にあった。そもそもは中打井川の馬之助神社が本元であるが、その昔、口打井川の村人に馬之助の霊が「どこか太鼓の聞こえるところに祀ってくれ」と告げ、それを受けて祀られたのが、口打井川の馬之助神社である。この車越という所は、上宮の太鼓も、上岡の太鼓もどちらも聞こえる場所であることから、この高台になったのだという。今年、河内神社の境内に移すときも、「元の場所と同じくらいの高さのところに」という地区の方たちの配慮があったらしい。

また、戦国期には、この口打井川にも山城があったようである。その近くに五輪塔が三基あり「五輪様」と呼ばれている。ここに「吉祥庵」というお寺があったという戦国期の記録があるのも、もしかしたら、この五輪塔は、山城の主のものかもしれない。



河内神社の境内に移された口打井川の馬之助神社

町のうごき	(4月30日)		人口	前月比	出生	死亡	転入	転出
	男	女						
	男	7,771	+4	男	6	4	27	25
	女	8,529	+1	女	3	9	26	19
	計	16,300	+5	計	9	13	53	44
	世帯数	8,306	+16	(4月中の届出)				
	窪川地域	11,564人	大正地域	2,258人	十和地域	2,478人		

四万十川の 水質状況		適正值(mg/l)	5月14日
リン酸	≤ 1.0	測定範囲以下	
硝酸	≤ 0.5	1.156	
アンモニウム	≤ 5.0	測定範囲以下	
アニオン活性剤	≤ 1.0	2.273	
化学的酸素要求量	≤ 10.0	0.10	

調査：大正(吾川)
資料：四万十高校自然環境部